

様式13

会派視察研修計画書

令和 4年10月28日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ
代表者名 鈴木みのり

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

| | | |
|------|---------------------------------------------------------------|------------------------|
| 参加議員 | 鈴木みのり ・ 小池友妃子 | |
| 日時 | 令和 4年10月31日（月）～令和 4年11月 2日（水） | |
| 視察先 | 愛媛県今治市・愛媛県宇和島市・愛媛県東温市 | |
| 研修内容 | 今治市 フェーズフリーなゴミ処理施設について 宇和島市 防災減災対策について 東温市 医療的ケア児支援について | |
| 日程 | 別紙資料参考(行程表) | |
| 交通手段 | 公共交通機関利用 乗降車駅名（ ） | 自家用車利用____台 所有者名（ ） |

(議会事務局記入)

| | |
|------|-------|
| 旅費の額 | (内 訳) |
| 円 | |

会派視察研修報告書

令和 4年12月26日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 1 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

| | |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参加議員 | 小池友妃子 |
| 日時 | 令和 4年10月31日（月）～ 令和 4年11月2日（水） |
| 視察先 | 愛媛県今治市・愛媛県宇和島市・愛媛県東温市 |
| 研修内容 | 今治市 フェーズフリーなゴミ処理施設について 宇和島市 防災減災対策について 東温市 医療的ケア児支援について |
| 視察先面会者 又は講師名等 | 今治市 市民環境部環境施設課 品川二郎課長 資源リサイクル課 村上浩一課長 宇和島市 議会事務局 水野宏一事務局長 総務企画部 危機管理課 山下真嗣課長 東温市 愛媛県保健福祉部 大西浩二係長 子ども療育センター事務局 高石裕二次長 他5名 |
| 備考 | |

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。



会派視察研修報告書

令和4年12月26日

議員氏名 小池友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和4年10月31日（月）～令和4年11月2日（水）
- 2 視察先 愛媛県今治市・愛媛県宇和島市・愛媛県東温市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

「フェーズフリーなごみ処理施設について」（愛媛県今治市）

◎フェーズフリーとは→

平常時と災害時という社会のフェーズ（時期、状態）を取り払い、普段利用している商品やサービスが災害時に適切に使えるようにする価値を表した言葉です。

今治市クリーンセンター（愛称：バリクリーン）は、ゴミ処理施設でありながら、指定避難所となっている施設で、2019年に「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」で最高賞であるグランプリを受賞されています。

本施設は、フェーズフリーという概念を全国のごみ処理施設に初めて取り入れた施設として2018年3月に竣工。今治市民約16万人分のごみの安定的な処理に加え、平常時は「市民の憩いの場」、災害時は「防災拠点」として地域貢献している施設です。

【21世紀のごみ処理施設のモデル（今治モデル）】

《基本コンセプト》

安全・安心で 人と地域と世代をつなぐ いまばりクリーンセンター

《今治モデルを構築する3つの柱》

- ① 廃棄物を安全かつ安定的に処理する施設
- ② 地域を守り市民に親しまれる施設
- ③ 環境啓発・体験型学習及び情報発信ができる施設

- ① 廃棄物を安全かつ安定的に処理する施設

彩豊かな自然環境と、今治らしい魅力的な景観を次世代に繋ぐため、最先端かつ最適な処理技術により、厳しい公害防止基準をクリアしたり、環境モニタリングの強化など地域の人々が安心できる施設運営をし、周辺環境の保全に配慮しています。

また30年間の長期安定稼働を目指すために、各設備の耐久性向上により、施設の長寿命化を実現したり、幅広いごみ質に対して、安定した処理を実現できる燃焼装置を取り入れたり、市民が安全かつ円滑にごみを持ち込むことができる配置動線をつくっていました。

さらに、最新鋭のシステム導入により、発電効率20%を達成。電力需要に即した運転計画も立案し、最終処分量を削減し、資源化率を向上させるという循環型社会の形成を推進されています。

② 地域を守り市民に親しまれる施設

地域に安心を届け、人々の交流を生み、そして笑顔を創るために、積極的な地域雇用計画と充実した教育システムを取り入れ、地域や社会への貢献に努めていました。

また今回の視察目的のメインである、防災拠点としての万全な災害対策を行っている施設でもあります。

災害対策の一部をご紹介させて頂くと、320人が7日間生活できる備蓄機能があり、簡易な仕切り板も備蓄されプライバシー配慮もできるようになっています。

さらに大震災の経験を踏まえ万全の耐震・免震対策がとられているだけでなく、停電時は、非常発電機によってプラントの運転や避難所への電気供給の10日間程度は可能であったり、断水時も地下水揚水設備があるため水の供給も可能となっています。こういったことから、災害時にもお風呂を開放できるし、空調設備も利用することができます。そして何より通常のトイレが利用できることが一番嬉しく、避難者の不安を軽減することができる施設となっていました。

③ 環境啓発・体験型学習及び情報発信ができる施設

未来への担い手を創出したいという思いから、工場の中身が見え、体験でき、楽しみながら学べるものとして、ごみクレーンの見学や蒸気タービンの見学者設備等が充実していました。

また今治の豊かな自然や産業をテーマにした展示、多目的室や工作室・修理品展示室を利用したイベントなどを開催し、市民への環境啓発を実施されています。

碧南市でも、今後衣浦クリーンセンターを始め、様々な公共施設の建替えまたは改修時このようなフェーズフリーの観点を持ち、日常時にも非常時にも市民の皆様が安心安全をお届けできる施設にしていくことが必要であると感じました。



「防災減災対策について」 （愛媛県宇和島市）

宇和島市では、人口約7万人に対して防災士が857人。444の自主防災組織に2人程度配置するようにし、地域の防災リーダーとして活躍されています。

防災訓練等も地震津波避難訓練を始め、土砂災害想定避難訓練、災害対策本部合同運営訓練、緊急物資輸送災害対応訓練、原子力訓練、自主防災組織防災訓練、民間ヘリコプターを利用した空域活用実働訓練、避難所HUG訓練等様々な実地訓練に取り組まれています。

また碧南市では指定避難所の鍵は暗証番号がわかっている自主防災会長等でないとキーBOXから取り出せないようになっていますが、宇和島市では震度5以上の地震の揺れで解錠する鍵保管箱を活用していました。この保管箱により最初に到着した人がその中に保管している鍵を取り出し施設入口等を解放できるようになっています。

さらに万一の時に災害対策本部室等にもなる部屋を準備。4階の会議室が万一の時の災害対策本部室になり、大型モニターや電子ホワイトボード等の情報機器等の整備されていたり、3階にある委員会室と議員協議室の可動間仕切りを開いて1室にすることで災害対策室（オペレーションルーム）として活用できるようになっており、委員会室の大型モニターに4階の災害対策本部室からの映像を表示することで情報の共有を図りながら災害対応を行うよう準備されていました。

万一の時に備えたものが、宇和島には多く取り入れられていました。災害情報伝達として、防災ラジオや情報メール等の活用。避難所Wi-Fi・特設公衆電話の設置。衛生安否確認サービス（Q-ANPI）の活用等。津波避難対策も万全で、海拔標識等は電柱、自動販売機、ポスト、歴史的旧町名標柱、消防団詰所等様々な場所でどこでもわかるようにしています。

碧南市は水に囲まれたまちです。宇和島のようにより意識高い市民を増やしていき、自助・共助・公助をしっかりと理解をし、地区住民の命は地区で守ることができるような組織作り強化、およびより丁寧な公助の取組みを進めていく必要があると思われました。

「公共施設のAED野外設置について」 （愛媛県宇和島市）

碧南市では公共施設の中に設置されているAED。いつでも活用できるようにと宇和島市では公共施設の外にAEDが設置され、24時間利用できるようになっていました。更新のタイミングでAEDをいれる箱を購入し公共施設の外に設置。箱は1つ8万円ほど。リモートで監視機能を設置しているが盗難はこれまでに一度もないということでした。

万一の時に1人でも多くの命を救うことができる対策を碧南市も進めていけるよう今後も伝え続け一日も早くいつでもどんな時でも命が救えるよう取り組んで参ります。



「医療的ケア児等の支援について」（愛媛県東温市）

◎医療的ケア児とは→

医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のことです。全国の医療的ケア児（在宅）は約2万人と推計されています。

◎医療的ケア児支援法とは→

「医療的ケア児」を法律上できちんと定義し、国や地方自治体が医療的ケア児の支援を行う責務を負うことを日本で初めて明文化した法律です。

（立法の目的）

医療的ケア児を子育てする家族の負担を軽減し、医療的ケア児の健やかな成長を図るとともに、その家族の離職を防止する目的で作られました。

障害や医療的ケアの有無にかかわらず、安心して子どもを産み、育てることができる社会を目指します。

（法の基本理念）

- ・ 医療的ケア児及びその家族の生活を社会全体で支援しなければならない。
- ・ 医療的ケアの有無に関わらず、子どもたちが共に教育を受けられるよう最大限に配慮しつつ、個々の状況に応じて、関係機関・民間団体が密に連携し、医療・保健・福祉・教育・労働について切れ目なく支援が行わなければならない。
- ・ 医療的ケア者（18歳以上）も適切な保健医療・福祉サービスを受けながら日常生活や社会生活を送ることができるよう支援を行わなければならない。
- ・ 住んでいる地域に関係なく、医療的ケア児とその家族が適切な支援を受けられるようにする。

愛媛県医療的ケア児支援センターでの支援

人工呼吸器やたん吸引等の医療的ケアが必要な児童、その保護者を対象とし、関係機関等からのご相談を受けています。

支援の内容としては、相談支援・情報提供として、医療的ケア児や保護者、関係機関等への助言を行ったり、医療的ケア児の支援に関する社会資源（医療・福祉サービス等）の情報を提供。そして適切な関係機関（医療、保健、福祉、教育、労働等）を紹介等があります。

この医療的ケア児等の支援に関わる人材はとても大切な役目となります。そこで相談支援専門員、保健師などを中心にこの支援者養成としての研修およびコーディネータースキルアップ研修も設けられ、医療的ケア児等の支援に関わる様々な関係機関との連携を図り、支援の総合調整を行われていました。

碧南市では、社会福祉法人 碧南市社会福祉協議会に2人コーディネーターが所属しています。そして愛知県の医療的ケア児支援センターへ相談等行いながら支援を進めています。現在市が把握している医療的ケア児は16名。医療的ケア児が家族の付添いなしで希望する施設に通えるよう碧南市としてどのように進めていくかより連携を強化しながら進めていく必要があると感じました。

